

初期の小崎弘道日記 (2)

土 肥 昭 夫

解 説

前号に引き続き、小崎弘道（一八五六—一九三八）の初期東京伝道時代の日記を寄稿する。この日記は次号で終わる。したがって、(1)一八八〇・一〇・一五—一八八五・九・二五（中断あり）、(2)一八八六・四・二—一八八六・一二・三一、(3)一八八七・一・一—一八八八・三・二〇となる。重ねて言うが、『日録第二』が同志社大学神学部研究室に所蔵されていないことは、遺憾である。前号の解説で約束した通り、小崎の自筆集などの目録は「小崎弘道自筆集・自筆稿目録」（『基督教研究』第六〇巻第2号、一九九九・三）として公表したので、参照されたい。次号にこの日記によって明らかになった小崎の思想と行動について述べる。本号でも彼の多彩な活動と共に彼の伝道者・牧者としての自省のことが記述されている。これは日記のようなものでなければ知ることの出来ないものであり、彼の真摯な魂の記録としても貴重である。前号と同様に、この日記を判読し、ワープロに打ち込んだのは、筆者の妻淳子である。彼女は判読困難な文字については兎玉光多編『くずし字用例辞典』（一九八八）、同『くずし字解説辞典』

(一九九四) によってそのひとつひとつを調べ、筆者といろいろ論議して原稿を完成していった。その労に改めて感謝したい。

『小崎弘道自筆集』 (12)

〔表紙〕

明治十九年四月

小崎弘道

〔住所氏名印〕

日録第三

日記 第三

十九年

四月廿一日

水 晴 昨日京都ニ着シ新島先生方ニ寓ス

午前八時同志社ノ祈禱会ニ行キ突然数分ノ感話ヲ為ス

同九時半ヨリ第二教会堂ニ於テ祈禱会アリ余之ヲ可ル

九時過キヨリ議事ヲ始メ伝道委員ノ報告ヲ聞キ伝道会社補助

金ノ割合ハ従前ノ通ニ拠ヘ置クコトニ可決ス

午後新島先生宅ニ於テ懇談会ヲ開キ諸教会一致ノ事等ヲ相談ス

夜又会議ヲ開キ教会ヨリ本局ヘ出スヘキ金員ハ伝道費四分ノ一ヨリ少カラサル事ト為ス等外数件ヲ決議ス

同廿二日 木 晴

午前会議アリ組合細則并ニ地方組合ヲ作ル事等ヲ議決ス

午後会堂ニテ懇談会アリ種々ノ要件ヲ議決ス

信徒ヨリ委員諸君ニ晩餐ノ饗応ヲ為ス

夜会堂ニテ奨励会アリ

同廿三日 金 晴

午前会議アリ

午後ヨリ夜ニ至ルマテ京極ニ於テ演説会アリ聴衆凡ソ千余人

同廿四日 土 晴

午前説教并聖晩餐ノ式アリ余説教ヲ為ス

新島先生ヨリノ御招ニテ丸山ニ於テ洋食ノ饗応ニ与ル

午後二時過キ上州ヨリ来レル書生ト共ニ写真ヲ取ル夫ヨリ新

島先生海老名兄ト共ニ円山ニ行入湯ス

夜グリーン氏宅ニテ食事ノ饗ニ与ル

同廿五日 日 晴

午前海老名兄説教ス余ハ少シク感スル所ヲ述ブ

夜学校ニ到テ書生ト共ニ談話ス

同廿六日 月 晴

午前竹原氏ヲ訪フ午後又二三ノ友人ヲ問フ

同廿七日 火 晴

午前八時過キ發程帰路ニ就ク湯浅海老名森本ノ三兄ト共ニ道ヲ東海道ニ取り関ニ至テ一泊ス

同廿八日 水 雨

午前七時前関ヲ發シ十一時四日市ニ着ス

三時過キ乗船但シ玄武丸ナリ五時出帆海上波ナシ

同廿九日 木 曇

午前ヨリ風強クナリ波亦高シ暈フモノ甚タ多シ午後七時過キ稍ク横浜ニ着ス上陸セシハ八時過キナリシヲ以テ爰ニ一泊ス

同三十日 金 雨

午前八時發汽車ニテ帰京ス家内一統無事

夜松山兄宅ニ於テ伝道上ノ相談ヲ為ス

五月一日

五月一日 土 晴

処々ノ知人ノ家ヲ訪フ

夜祈禱会アリ之ニ会ス

五月二日 日 晴

午前説教ス聖晚餐式アリ集ルモノ凡ソ八十名

午後又番町ニ於テ説教ス夜又講義ヲ為ス集ルモノ昼ハ三十五

六人夜ハ二十余人ナリ

同三日 月 晴

同四日 火 晴

夜湯浅兄宅ニ於テ伝道之予算ヲ定メ仮リニ余ヲ以テ専任委員トスルコトニ定ム

同五日 水 晴

夜三好氏宅之集ニ会ス

同六日 木 晴

夜会堂ニ於テ祈禱会アリ

同七日 金

杉田兄福島ノ伝道地ヨリ帰京ス

同八日 土

夜尾崎氏宅ニ於テ講義ス

同九日 日 晴

森本及杉田之両兄講義ス聴衆凡ソ平生ノ通り

午後番町ニ於テ説教ス聴衆凡ソ四五十人

同四時ヨリ又有志者ノ為メニ講義ス

夜又講義ス

同十日 月

杉田兄上州ニ帰ル

同十一日 火

夜三好氏宅ノ集リニ会ス

同十二日 水 晴

午後五時ヨリ赤阪田町七丁目ニ於テ浮田君ノ為メニ送別会ヲ

催ス

山岡君上州ヨリ出京ス

同十三日 木 晴

山岡君福島ニ向テ発程ス

夜祈禱会アリ

同十四日 金 曇

午前十時ヨリ杉山兄ト共ニ布田駅ニ行ク

午後三時比ヨリ演説アリ集ルモ三四十人下曾〔根〕杉山ト余演説ス

夜又演説アリ前ノ三人演説ス夜ハ聴衆モ昼間ヨリ多ク其演説モ亦上出来キナリシ

同十五日 土 晴

午前六時同処ヲ発シ直ニ上野ニ開キタル信徒ノ親睦会ニ会ス集ルモノ凡ソ四五百人ト見受ケタリ

夜共存同衆館ノ例会ニ赴ク

同十六日 日 晴

余ハ監督教会ノ招キニ依テ同教会ニ行イ説教ス

午後ハ番町ニ説教講義夜帰宅ス聴衆ハ例ヨリモ多シ

同十七日 月 晴

午前新島先生着京アリタリ夫ヨリ先生ヲ富田氏方ニ訪ヒ数時間仙台学校ノ事ヲ相談シタリ

午後四時ヨリナツクス氏宅ニ行キ教会合同ノ事ヲ談シタリ

同十八日 火 小雨

午前新島先生ト共ニデフォレスト氏ノ館ニ会ス同氏新潟ニ行クニ海老名兄ノ同行アランコトヲ請ハル余之カ為メ海老名兄方ニ相談ニ行クニ決シ二時ノ汽車ニテ上州前橋ニ行ク

同地ニ着セシハ七時過キナリ夫ヨリ新潟行ノ事ヲ相談ス

同十九日 水 雨

午後番町森氏ニ於テ初メテ婦人ノ集ヲ開ク集ルモノ五名

夜三好氏宅ノ集ニ会ス

同廿日 曇 木

新島先生奥州ニ向テ出発ス午前押川氏訪来ル

午後大学哲学会ニ臨ム会議アリシヲ以テ七時比ニ帰宅ス

夜祈禱会アリ

同廿一日 金 曇

午前高鍋ノ田村氏及ヒ朽木ノ矢野来訪ス

午後古沢氏ヲ訪ヒ夫ヨリ婦人ノ集ニ会ス

夜番町ノ祈禱会アリ

同廿二日 土 曇

午後築地メソヂスト教会堂ニテ催フセシハリス氏送別会ニ会セリ

右会終リシ後ハリス氏ト三河屋ニ於テ会食ス

夜芝露月町会堂ニ於テ説教ス

五月廿三日 日 雨

午前会堂ニテ説教ス集ルモノ平常ヨリ少シ

午後千代ト共番町講義所ニ至ル雨甚シク頗ル困却セリ

午後二時ノ説教并ニ四時ノ講義及ヒ夜ノ講義ヲ終リ夜雨中ヲ冒シテ九時過キ帰宅ス

同廿四日 月 曇

午後警醒社ヘ行ク夜森本兄来訪ス

同廿五日 火 晴

午前在宅午後上野兄ト共ニ外務省ニ至リ岡部氏ニ面会ス
夜宅ニ於テ聖書之会読ヲ始ム

同廿六日 水 晴

午前上野兄ト共富田氏ヲ訪フ氷川社内ニ至リテ祈禱ス

夜番町三好氏宅ノ集ニ会ス

同廿七日 木 雨

夜祈禱会ニ出テ感スル所ヲ述フ

同廿八日 金 晴

午前在宅新聞原稿ヲ認ム

夜番町講義所祈禱会ニ会ス集ル人少ケレトモ頗ル有益ナル会
ナリシ如シ

同廿九日 土 晴

午前氷川神社ニ行イテ祈禱ス

午後三時ヨリ津田仙氏宅ニテイチゴノ馳走ヲ衆人ト共ニ受ク

同三十日 日 晴

麻布会堂ニテハ松山兄説教ス集ルモノ七八十名

午後番町ノ講義所ニ於テ汪生講義ス集ルモノ凡ソ六七十名然
シ傍ニ大工ノ工場アリテ甚タ躁シク十分説ク能ハサリシハ甚

タ残念ナリ

午後四時ヨリ会読ヲ為ス

夜又講義アリ講義終リテ木村氏来リテ説教ス集ルモノ凡ソ三
十名

同三十一日 月 雨

雨天ニテ終日出ル能ハズ読書ニ費セリ

近頃信仰ノ薄キヲ感スルコト甚タ切ナリ為メニ十分聖靈ノ恩
化ヲ祈ラントス

会津若松ヨリ去ル二十三日ニ新島先生ヨリ十四名ノ受洗者ヲ
リシトノ報アリ

六月

六月

六月一日 火 雨

雨天ニテ午前ハ在宅

午後三時ヨリ築地神学校ニテ教会合同之事ニ付相談会ヲ開ク

次ノ木曜日午後三時ヨリ再ヒ同所ニ開ク事ニ定メテ帰ル

夜会読ヲ為ス雨天ニテ来ルモノ少シ

同二日 水 晴

午前在宅

午後二時麴町講義所ニ於テ婦人ノ集ヲ開ク集ルモノ凡ソ七人
夫ヨリ権田氏ヲ問ヒ又井上毅氏ヲ訪ヒ夫ヨリ三好氏宅ノ集ニ

会ス

同三日 木 晴

午前在宅

午後齒医小幡并ニ毎日新聞社中川氏ヲ訪ヒ警醒社ニ至テ帰ル

夜祈禱会アリ

同四日 金 雨

午前在宅

午後二時ヨリ婦人集ニ会ス

夜三好氏ト共ニ青木周蔵氏ヲ訪フ益話時ヲ移シテ帰ル時二十

一時過キナリシ

同五日 土 晴

今朝ヨリ松山森本両兄ト共ニ祈禱スルコトヲ始ム

午前在宅

午後一時ヨリ年会之集ニ会ス集ルモノ僅ニ十名許リ有名無実

ノ会員ヲ除名スルコトニ決ス

午後四時比新島先生仙台ヨリ帰京アリタルヲ以テ直ニ富田氏

ヲ訪フ仙台学校設立ノ準備畧整フタル吉報ヲ聴キ大ニ喜ヘリ

先生之尊父先般ヨリ病危篤ナリトノ電報アリシヲ以テ直ニ帰

京セラル、コトニ決ス富田氏宅ニテ八時比迄学校并東北伝道

ノ計画ヲ談シテ帰宅ス

同六日 日 晴

午前会堂ニテ説教頗ル感スル所アルカ如シ

午後番町講義所ニテ説教夫ヨリ会説

夜講義ヲ為ス

同七日 月 晴

午前在宅午後遊歩ス

同八日 火 曇

昨日原田助氏北海道ニ行カン為メ上京ス

午前在宅海老名兄新潟ヨリ帰ル

夜宅ニ於テ講義ヲ為ス

同九日 水 晴

午前在宅午後二時仲之町栗津氏宅ニ於テ婦人親睦会ヲ開ク集

ルモノ凡ソ三十余名近來ノ盛会ナリシ

夜三好氏宅ニ於テ講義アリ

デフオレスト氏昨日帰京ス本日午後三時半ヨリ伝道委員ノ会

ヲ開ク筈ナリシモ欠席スルモノ多キヲ以明日ニ延ハス事ニ決

ス

同十日 晴 木

午前祈禱会前伝道上ノ相談会ヲ開ク夫ヨリ祈禱ヲ為シテ散ス

午後三時過キ海老名湯浅松山ノ三兄ト共教会合同相談ノ為メ

ニ神学校ニ行キタレトモ他ノ人ハ已ニ帰宅シタルカ又不参ナ

ルヲ以テ遂ニ会ヲ開カサリキ

夜祈禱会アリ集ルモノ常ヨリ多ク且ツ熱心ナル祈ヲ為スモノ

モ多カリキハ感謝スヘキコトナリ尚ホ此会ニ十分ノ恩寵アラ

シコトヲ祈ル

同十一日 金 曇雨

午前在宅

夜番町ノ祈禱会ニ会ス集ルモノ多カラサレトモ有益ナル会ト

思ハレタリ

同十二日 土 晴

午前米国ニユウヨルク州シラキユーズ教会ノ牧師ロウレンス

氏来訪シ日本ノ伝道上四個ノ疑問ヲ為ス

一 日本ガ基督教国トナルニハ向後凡ソ幾年ヲ要スルヤ

一 政府ニ於テ国教ヲ立ルノ意アルヤ否若シアラバ行ハル、

トスルカ如何

一 日本将来ニ於テ聖靈ノ著シキ恩化アルヘキ乎如何ン
本日集リシモノハ杉山松山森本長田山鹿下曾根ノ六兄ナリシ
ガ各其信スル所ヲ述ヘタリ

此会終ルヤ否ギユリーキ氏來訪ス但シ今度渡來シタル禁酒會
ノ演説者婦人レヴ井ツト女ヲ余ニ紹介センガ為メナリ依テ同
氏ト共ニ同女ヲ築地四十二番女学校ニ訪フ翌日番町講義所ニ
於テ同女ニ演説ヲ依頼シテ帰ル掃途ギユリーキ氏ト共ニ洋食
ヲ喫ス

同十三日 日 晴

本日会堂ニ於テ長田兄説教ス夫ヨリロウレンス氏短キ勸メヲ
為ス本日集ルモノ凡ソ七十余名

午後番町講義所ニ於テ原田助君説教ス夫ヨリレヴ井ツト女テ
ンペランスノ事ニ付演説ス当日集ルモノ凡ソ百五十余人
夫ヨリ聖書ノ会説ヲ為ス

夜講義ヲ為ス集ルモノ十四五名ニ過キズ

同十四日 月 雨

午前レヴ井ツト女ト同伴ニテ森青木ノ両氏ヲ訪フ
午後二時過キヨリ一致神学校ニ会シ教会合同ノ相談ヲ為ス

同十五日 火 晴

午前例ノ如ク祈禱會ヲ為シ夫ヨリ築地ニ行キレヴ井ツト女ヲ
伴ヒ大山伯夫人ヲ問フ掃路元老院ニ至リ中村正直及加藤弘之
両氏ヲ訪ヒタレトモ皆出勤ナカリシ

午後在宅

午後七時半過キヨリ自宅ニテ講義ヲ為シタリ

同十六日 水 晴

午前在宅
午後飯島及上野両氏ヲ訪フ

夜在宅

同十七日 木 曇

午前在宅編輯ニ従事ス

夜祈禱會アリ網島兄細君ト共ニ着京ス

本日午後四時過キヨリ共存同衆會之例会ニ会ス

同十八日 金 晴

夜番町祈禱會ニ於テ受洗志願者ノ為メ勸メヲ為シ且其信仰ヲ
問フ

同十九日 土 晴

午後五時ヨリ洋食店ニ於テ網島君夫婦ノ為メ送別會ヲ催フス

同廿日 日 晴

網島君例刻ヨリ説教ス集ルモノ凡ソ八十余名亦少シク感スル
所ヲ述フ

午後番町講義所ニ於テ例ノ如ク説教ス会後講義ヲ為シ夜又講
義ス集ルモノ例ヨリモ少シ

同廿一日 月 晴

午前九時比ヨリ網島君ト共ニ和田垣君ヲ訪ヒ夫ヨリ大学ニ到
リ講堂并試験所ヲ觀ル

同廿二日 火 晴

右両君ト共牛店ニテ午飯ヲ喫シ三時過キニ帰宅ス

午前在宅午後厚生館ニ行キ一致神學英和兩校ノ卒業式ヲ參觀

ス演説ハ格別面白ロカラサリシガ殊ニ神学生徒ノ演説ハ不出
来ナリシ如シ

夜例ノ如ク聖書ノ講義ヲ為ス
網島君ハ本日午後ヨリ出発ス

同二十三日 水 晴

午前在宅午後番町講義所ニ於テ婦人ノ集ヲ為ス
夜三好氏宅ノ集ニ会シ十時過キ帰宅ス

同二十四日 木 晴

午前在宅午後二時ヨリ植村兄宅ヲ訪フ夜会堂ノ祈禱会ニ会ス
近來ノ祈禱会ハ稍活潑ニナリシ如キ趣キアルハ賀スヘキコト
ナリ尚此上聖靈ノ恩祐アラシコトヲ祈ル

同廿五日 金 晴

午前在宅編輯ニ従事ス
午後一時過キヨリスピン子ル氏ヲ訪フ
夜番町之祈禱ニ会ス

同廿六日 土 晴

午前築地ニ行キ石原氏ヲ訪ヒレビツト婦人演説ノ為メ来月二
日ニ厚生館借入レノ相談ヲ為ス

午後二時過キヨリ三好河村ノ両氏來訪ス其信仰ヲ問ヒ共ニ祈
禱ス

夜築地四十二番女学校ニ到リレビツト婦人ヲ訪ヒ夫ヨリ福音
教会堂ニ行イテ説教ス頗ル疲労ス

同廿七日 日 晴

余説教ス然シ肉體ノ弱ク精神不活潑ナリシ故甚タ不満足ノ説

教ナリシ集ルモノ例ノ如シ
午後二時番町之講義ハ長田兄之ヲ務ム

四時ヨリ講義ヲ為シ夜又講義ス
同廿八日 月 風強シ

午前九時比水戸ヘ行カンカ為メ自宅ヲ発ス同時十一時ヨリ大
橋側ヨリ川汽船ニ乗り行徳ニ到リ夫ヨリ人力車ニテ木下ニ行
ク同処ヘ着セシ六時過キナリシ又同処出帆ノ汽船ニ乗リテ鉢
田ニ行イシガ船途中ニ止リシ故同処ニ着セシハ翌日ノ午前十
二時過キナリシ但シ行徳ヨリ木下マデ八里半木下ヨリ鉢田マ
デ二十二里ナリ△▽行徳木下ノ間塵埃左右前後ニ起リ恰モ
霧中ヲ行カ如クナリシ

同廿九日 火 大雨

今朝アサマダキヨリ大雨ナリシガ幸ヒ船中ナリシ故其災ヲ受
ケサリシ坂東太郎ハ実ニ我國第一ノ大川ニテ其河幅ノ広キ所
ハ宛モ湖ノ如シ然レトモ兩岸共ニ見ルヘキノ風景ナシ
雨午後ヨリ晴ル午後一時鉢田ヲ発シ同六時過キ稍ク水戸ニ着
ス但シ両所ノ間凡ソ九里途中海岸ニ沿フ所風景尤モ佳ナリ白
波岸ヲ洗フハサナカラ白馬ノ走馳スルニ似タリ

水戸ニ着シ直ニ木内氏ヲ訪フ泉町麴屋ニ泊ス
夜木内并太田原ノ両氏訪来リ十時迄伝道上ノ談ヲ為シ共ニ祈
禱シテ散会ス

同卅日 水 晴 曇

午前七時前太田原氏來訪ス但シ本夜説教ノ為メ寄席ヲ借ラン
トセシモ差支アル旨ヲ来リ告ク

夫ヨリ外出シ旧城内ヲ觀ルニ草蓼タト生茂リ深山ヲ觀カ如シ
夫ヨリ常置委員大久保氏ヲ訪フタルモ留主ナリシ又県會議員
遠藤氏ヲ訪フタルニ病中ヲ以テ面会ヲ辞ス夫ヨリ公園好文亭
ヲ參觀セシニ北ニ山ヲ擁シ西南ニ洗馬沼ヲ觀シ風光頗ル佳ナリ
夫ヨリ行テ藤田東湖ノ墓ヲ觀午前十時過キニ帰館ス

水戸人口僅ニ卅万余戸數三千ニ滿タサル小都會ナリ旧時ノ土
族ハ多ク離散死亡シテ有力者甚タ稀レナリ宗教ハ重ニ儒教或
神道ニテ仏教甚少シ水戸ノ全市ニ僅ニ三箇ノ寺アリ県下到處
寺院アルヲ見ズ当地ノ墓碑ヲ見ルニ多クハ唯俗名ヲ記スルノ
ミテ戒名ヲ記スルモノアルハ甚タ稀レナリ

希臘教アルモ其信徒三十名ニ滿タサル由ナシ道ヲ求ムルモノ
多クアレトモ満足ニ之ヲ教フル能ハサルカ故其道ニ入ラサル
趣キナリ

此地ニ伝道ノ機大ニ熟シ居ルハ明白ナル事ナレドモ一致教會
ト双方ヨリ伝道スルハ或ハ得策ナラサルカ如シ

午後四時比ヨリ木内伊之介氏ヲ訪フ夫ヨリ同氏ト共ニ帰館シ
タルニ立見濱谷丹栗原中村諸氏ノ外十余名來訪ス□教ノ談ヲ
為ス右諸氏ノ帰リタルハ十一時過キナリシ右諸氏ノ内木内島
村外一二名余程熱心ニ道ヲ求ムルガ如シ願クハ大能ノ神ハ此
地ヲ惠ミ速ニ伝道士ヲ送ラレンコトヲ

七月

七月一日 木 曇後雨

午前六時比水戸ヲ発ス筈間ヲ過キ下館ニ至テ午飯ヲ喫シ結城

ヲ過キ三時比小山停車場ニ着ス此ニテ凡ソ三時間休息シ午後
五時五十八分發ノ汽車ニ乘リ同八時三十四分上野ニ着シ同九
時三十分比無事帰宅ス家内一同無事ナリシ

同二日 金 晴

午前長田兄ヲ訪ヒ夫ヨリ警醒社ニ至リ又築地ニ至リ兼テ計画
シタル本日ノ演説ノ都合ヲ問質ス

午後三時ヨリ築地ニ至リレビット夫人ト同行シ厚生館ニ至ル
四時ヨリ開会井深氏先ツ祈禱シ夫ヨリレビット夫人ノ來歴ヲ
述ヘ夫人先ツ唱歌シ夫ヨリ直ニ演説ス先ツ同婦人カ日本ニ來
ラレタル來歴ヲ述ヘ夫ヨリ本題ニ本題當今欧州諸人種ノ墮落
スル事實ヲ挙ケ夫ノ原因ハ吹烟飲酒不品行ニアル旨ヲ述ベ日
本人カ此害ヲ避クルニ至ランコトヲ望ムトノ趣意ヲ以テ其演
説ヲ終レリ音声滔々堂内ニ滿チ渡リ真ニ熟練ヲ現ハセリ此會
ヲ閉シハ午後五時過キナリシ

夫ヨリ海老名兄宅ヲ訪警醒社并東京伝道上ノ事ヲ談判ス伝道
之事ハ長田兄ハ若松ニ海老名兄ハ麻布教會牧師ニ余ハ專任伝
道者トナルコトニ評議一決ス

同三日 土 晴

夫ヨリ番町講義所ニ至リ祈禱會ヲ終リ十時比帰宅ス
午前在宅午後厚生館ニ至リ津田先生之演説ヲ拜聽ス
夜會堂ニテ三教會ノ祈禱會アリ夫ヨリ會堂之事ニ付委員ト相
談ヲ為シ夜十一時過キ帰宅ス

同四日 日 晴

午前長田兄說教ス夫ヨリ寄附金ノ相談ヲ為ス新ニ寄附ヲ約ス

ルモノ凡ソ二百八拾余円ノ多キニ至ル

午後番町ニ於テ海老名兄説教ス

夜講義ヲ為シテ十時比帰宅ス

同五日 月 晴

午前ヨリ頭痛ニテ何事ヲモ為ス能ハサリシ

同六日 火 晴

本日モ又頭痛又齒痛ニテ何事ヲモ為ス能ハサリシ

同七日 水 晴

本日モ不快ナリシ午後二時ヨリ婦人集ニ会セシ別ニ談ヲ為ス能ハサリシ夜三好氏ニ行キタルモ何ニモ話スヲ得サリシ

同八日 木 晴

岩村氏病氣二三日前ヨリ重クナリ殊ニ昨日ハ甚タ悪シカリシ且ツ頭痛アリテ夜眠ル能ハサリシ

同九日 金 晴

五時比八十吉氏劇シク出血ス早速医師ヲ迎ヘ治療セシム昨日ヨリ近傍ノ医師松山氏ニ治療ヲ依頼ス

夕刻共立病院ニ至リ佐伯氏ヲ訪ヒ夫ヨリ女学校ヘ行キレヴ并ツト婦人ノ招ニテ晚餐ノ饗ニ与ル

同十日 土 晴

五時比八十吉氏亦危篤トナル又医師ヲ迎フ夜病院ニ至リ佐伯氏ヲ訪ヒ又寺尾氏ヲ訪フ寺尾氏来リ本夜一泊セラル

同十一日 日 晴

本日午前四時半比八十吉氏遂ニ没ス八十吉氏未タ道ヲ信セザリシガ病革ルニ及テ少シク悟ル所アルカトテ見ヘ救ヲ受クルヤウ祈リクレト依頼ス依テ教氏ノ為メニ祈禱シタリ死スルトキハ大ニ安心シタルカ如シ

本日不破氏説教ス午後八長田氏ニ説教ヲ依頼ス

同十二日 月 晴

八十吉ノ葬式ハ午後二時トス松山兄話ヲ為シ長田兄祈禱ス夫ヨリ谷中三崎町西光寺ニ行テ葬ル午後六時比帰宅ス

過日来八十吉氏ノ大病ニ付種々心配シハケシク疲労ス

同十三日 火 晴

昨晚久シブリニ安眠ス

夜会堂ニテ説教ス身体疲労シケル故十分話ス能ハサリシ

同十四日 水 晴

本日尤モ暑氣甚シ

同十五日 木 晴

朝湯浅氏ヲ問フ夫ヨリ会計検査院ニ行キ大蔵ニ行キ警醒社ヘ行テ帰ル午後三好氏ヲ訪フ但シ同氏之二女薫子今朝死去セシヲ以テナリ

夫ヨリ共存同衆ノ例会ニ赴ク

同十六日 金 晴

夜番町之講義所ニ行イテ祈禱会ヲ催フス

同十七日 土 晴

午前レビット夫人ヲ訪フ午後三時ヨリ厚生館ニ於テ同夫人ノ演説アリタリ聴衆頗ル多カリキ

此日グリーン教師中仙道ヲ經テ京都ヨリ来ル月曜日ヲ期シテ
伝道上ノ相談ヲ為スコトニ定ム

海老名兄昨日ヨリ愈東京ニ移転ス

同十八日 日 雨

午前長田兄説教スグリーン海老名ノ阿氏来臨ス来会者凡ソ七
十名計リ

午後二時ヨリ番町ニ於テ講義ス四時ヨリ説教アリ来会者凡ソ
四十余名

夜疲労セシヲ以テ講義ヲ海老名兄ニ依頼セリ

同十九日 月 雨

午前九時ヨリ伝道上之事ニ付グリーン新島松山海老名之諸氏
ト共ニ相談会ヲ開キ午後四時比閉会ス湯浅兄ハ諸用アリテ今
朝ヨリ帰郷ス上野兄来リ会堂寄附金ノ残金ヲグリーン教師ヨ
リ受取ル

夜厚生館ニ於テ聖書の友ノ集リホ井ツトニ海老名レビツト
ノ三氏演説シ午後十一時比閉会ス

本日原田氏北海道ヨリ帰ル又新島先生ハ昨日仙台行ノ為メ出
京セラレタリ長谷川氏又京都ヨリ来ル

同廿日 火 晴

本日終日他出セサリシ

同廿一日

新島先生富田氏宅ニ訪ヒ夫ヨリ青木氏ヲ訪ヒ大蔵省ニ行岩村
氏ノ金子ヲ受ケ取り外務省ニ行キ古沢氏ニ面会シ新島先生ト
共青木氏ニ面会スルノ約ヲ為シテ帰ル

夫ヨリ海老名氏ヲ訪フ継憲上州ヨリ帰ル

夜新島先生ト共ニ青木氏ヲ訪フタレトモ留守ニテ面会スルヲ
得サリシ此日落雷アリ

同廿二日 木 晴

夜祈禱会アリ集ルモノ平常ヨリ多シ

同廿三日 金 晴

午前八時前海老名兄ト共福沢氏ヲ訪ヒタレトモ留守ニテ面会
スルヲ得サリシ夫レヨリ肥塚氏ヲ訪ヒ二三時間閑話ヲ為シテ
帰ル

グリーン氏夫婦上総ヨリ帰問フ留守ナリシヲ以テ午後三時過
キヨリ海老名兄宅ニテ新聞并ニ伝道之事ニ付キ相談ス

夜番町之祈禱会ニ海老名兄ト共ニ之ニ会ス

同廿四日 土 晴

午前ヨリ雑誌ヲ認メントシタルモ思想錯雜シテ何ヲモ認ルヲ
得サリシ

同廿五日 日 晴

午前九時イーストレーキ氏ハ会堂ニテ説教ス集ルモノ凡ソ二
十四五名

午後二時番町講義所ニ於テ講義ス

午後四時ヨリ説教ス集ルモノ凡ソ五十名

夜ハ宅ニテ休ミタリ

本日麻布会堂ニ於テハ八月一日開堂式ヲ行フコトヲ決シタル
由ナリ

同廿六日 月 晴

終日在宅雜誌ノ原稿ヲ認ム

夜海老名兄宅ヲ訪フ森本兄上州ヨリ帰ル

同廿七日 火 晴

同廿八日 水 晴

夜三好氏方ニスピン子ル氏ノ講義アリ来八月中ハ休会スルコトニ決ス

同廿九日 木 晴

夜会堂ニテ祈禱会アリ

同三十日 金 晴

午前青木外務次官ヲ訪フ同来一日ノ開堂式ニ会セラル、コトヲ約セラル次キニ三好氏ヲ訪フ祝詞ヲ述ヘラレンコトヲ請ヒタレトモ事情ニテ辞セラル

夜番町ノ祈禱会ニ臨ミ受洗者ノ試験ヲ為ス

同三十一日 土 晴

午前ヨリシテ開堂式ノ準備ニ助力ス

八月

八月一日 日 晴

午前八時開堂式ヲ執行ス長田兄司会上野氏報告ヲ為シ余奉堂ノ祈禱ヲ務メ海老名兄説教ス終ニ津田木全両君ノ祝詞アリ夫ヨリ余小児一名信徒八名ニバプテスマヲ施シ松山兄ノ司会ニテ聖晚餐ノ式ヲ守ル本日は会スルモノ三好岡部山下和田垣小池小浦ノ諸氏ヲ始メトシ内外ノ信徒并來客三百余名式終リテ茶菓ヲ饗ス

会堂建築ノ挙ハ明治十三四年ノ比ヨリ企図セシ所ニ千幸万苦

ヲ経テ稍ク成就スルヲ得リシ偏ニ天父ニ感謝スル所ナリ然シ尚多少ノ負債アルヲ免レサレバ天父ノ御恩恵ニテ速ニ之ヲ返済スルニ至ランコトヲ祈ル

此所赤坂靈南坂町十四番地六軒ニ七軒凡ソ四十二三坪ノ建築ナリ

夜番町ニ行イテ講義ス同所午後ノ講義ハ暫時午前八時ヨリ始ムルコトヲ決ス

同二日 月 晴

明日ヨリ海水浴ノ為メ房州へ行クコトニ決シタレバ夫ノ準備ヲ為ス

同三日 火 晴

午前五時半過キ妻ト共ニ家ヲ出テ靈岸島町ニテ三好兄弟及森氏ニ会シ夫ヨリ汽船房州丸ニ乗リテ東京ヲ発シタルニ横浜ノ沖合ヲ過クル比ニナリ風波烈シク乘客概シ船暈セリ午前十一時過横須賀ニ着ス風波烈シキヲ以テ同所ニ上ルコトニ決シ同処ノ旅店ニ一泊ス

同所ハ戸数凡ソ一千余頗ル繁華ノ港ナリ港内多クノ日本船并軍艦汽船ヲ繋ク

同四日 水 晴

午前十一時比東京ヨリ來ル通快丸此ニ着ス直ニ之ニ乗リ同処ヲ発シタルニ本日ハ前日ト異ナリ海上実ニ平穩ナリ午後二時過キ北条ニ着ス

北条ハ戸数凡ソ三百余郡役所裁判所監獄アリ先ツ房州ノ都会

ト云フベシ

同所木村屋ニ宿スルコトニ定ム

同五日 木 晴

同六日 金 晴

本日ハ一同舟ニテ高島マデ遊ブ

同七日 土 晴

終日水浴魚漁并種々ノ遊戯ヲ為ス

同八日 日 晴

午前一同祈禱会ヲ催フス夜近傍ノ人々ヲ集メテ之ニ説教ス聴

衆凡ソ四五十人アリタリ

同九日 月 晴

同十日 火 晴

千代并三好重彦之三君帰京ス

同十一日 水 晴

同十二日 木 晴

同十三日 金 晴

此諸日ハ例ノ如キ遊戯ヲ以テ渡リシ唯一日塩見ノ松ヲ見ニ行

キコトアルノミ

此日三好和田垣之諸君来北アリタリ

夜船ヲ浮テ月ヲ観ル

同十四日 土 晴

同十五日 日 晴

午前近村国分村ニ行キテ説教セントシタルモ時ヲ誤リ集ル人ナカリシヲ以テ再ヒ引帰シ午後再ヒ之ニ行キ説教シタリ集ル

モノ凡ソ五六十名皆ナ謹テ聴聞ス

夜又宿ニテ説教ス集ルモノ凡五十余名ナリ

同十六日 月 晴

午前漁船ヲ借テ海ニテ遊ブ午後三時比本多内田之両氏来北ス

同十七日 火 晴

迁生ト森三好□郎之両君ハ帰京ス海路実ニ平穩ニシテ五時半

過帰宅ス

同十八日 水 晴

午前教会之諸氏ニ面会ス

同十九日 木

午前八時比ヨリ上州ニ向テ出発ス

午後三時安中ニ着ス此夜磯部ニ一泊ス翌日原市ニ行キ色々ノ

人ニ面会ス

同廿一日 土 晴

原市会堂ニ於テ午後三時ヨリ説教会ヲ開ク中山山岡杉田ノ三

氏ト余説教ス跡ニテ伝道会社寄附金ノ事ヲ依頼ス

同廿二日 日 晴

安中会堂ニ於テ午後三時比ヨリ同シク説教会ヲ開ク右諸氏并

須田氏ト余説教ス爰ニテモ伝道会社寄附金之事ヲ依頼ス兩回

共聴衆可成多カリシ

同廿三日 月 晴

富岡ニ向テ安中ヲ発シ爰ニ一回ノ説教ヲナセリ安中原市ニテ

寄附金凡ソ七八十円ノ申込ム為セリ賀スヘキコトナリ

同廿四日 火 晴

午前十時比富岡ヲ発シ午後一時過キ高崎ニ着四時比迄星野氏宅ニテ話ヲ為シ夫前橋ヘ赴キ同七時過キ不破氏ニ着シタリ同夜前橋ニ於テ説教ヲ為ス

同廿五日 水 晴

午前五時比前橋ヲ発シ九時比藤岡ニ着シ午後三時ヨリ同所ニテ一回ノ説教ヲ為シ夫ヨリ終リノ汽車ニテ帰京ス

同廿六日 木 晴

夜祈禱会ニ出ツ

〔欄外〕山岡氏若松ニ向テ発ス

同廿七日 金 晴

番町講義所祈禱会ニ出ツ

同廿八日 土

教会ノ相談会アリタリ

同廿九日 日

午前九時始靈南坂之新会堂ニテ説教ス聴衆凡ソ百五六十人

夜番町ニ説教ス

同三十日 月

同三十一日 火

九月一日 水

同二日 木 晴

夜祈禱会ニ出ツ

長田兄二三日前岡山ヨリ帰り司会セリ

木村鑑子ノ送葬ニ会ス

同三日 金 晴

夜番町之祈禱会ニ出ツ

同四日 土

同五日 日

会堂ニテ受洗者四名アリ後聖晚餐ノ礼ヲ守ル

夜番町ニ於テ説教ス

同六日 月

同七日 火

同八日 水

本日和田垣氏夫婦午前ヨリ来訪サレ午後四時帰宅セラル

夜三好氏宅スピン子ル氏ノ講義アリテ之ニ出席ス

同九日 木 大雨

夜祈禱会ニ出ツ

同十日 金

番町講義所祈禱会ニ出ツ

〔欄外〕新原氏原市ニ赴ク

同十一日 土 風アリ

会堂長田兄ノ為メ親睦会ヲ催フス集ルモノ凡五十余名二時過

キ散会ス夫ヨリ森本三好之両兄ト共ニ和田垣氏ヲ訪ヒ夜十時

過キ帰宅ス

同十二日 日 晴

番町講義所ニ於テ本日ヨリ始メテ安息日学校ヲ開ク先同学校

ノ趣意歴史等ヲ述ヘ夫ヨリ書記会計并校長ヲ撰生徒ノ名簿ヲ

作ル集ルモ小児成年ノ人合セテ三十余名

午後二時ヨリ説教ス

夫ヨリ三好氏ニ至リ夜又説教ス

同十三日 月 晴

午前セ井ルス氏ノリバイハル論ヲ読ミ頗ル感スル所アリタリ
為メニ神ニ祈禱ス

夜秋葉之原ノ大曲馬ヲ觀ニ行キ十時前ニ帰宅ス

同十四日 火 晴

午前在宅午後六時ヨリ出島氏ヲ訪ヒ其ヨリ青江秀氏ヲ訪ヒ數
時間話シテ帰リタリ

同十五日 水 晴

午後四時共存同衆館ノ例会ニ赴ク同八時ヨリ三好氏宅ノ集ニ
会ス

同十六日 木 雨午後晴

午前杉山兄來訪ス同兄ハ一週間前ヨリコーサンド氏ト共ニ奥
州地方ヲ巡回シ昨夜帰京セリ

夜祈禱會ニ出席ス頗ル熱心ナル祈禱アリ青江氏悔改ノ祈ヲ為
ス

同十七日 金 曇

午後海老名兄宅ニテ相談會ヲ開ク

夜番町祈禱會ニ行ク新ニ祈リシモノアリテ頗ル盛會ナリ

同十八日 土 晴

午前氷川神社ニ行イテ祈禱ス午後杉山氏ト共ニ警醒社ニ行ク
夜長田兄ノ催フシニテ粟津氏宅ニ於テ留別會アリ集ルモノ五
十余人祈禱アリ演説アリ茶菓ノ饗アリ頗ル盛會ナリシ

夜十一時比帰宅ス

同十九日 日 曇夜雨

午前會堂ニテ長田兄留別ノ説教アリ後安息日学校々長ヲ松山
兄ニ依頼シタルモ固辭セシヲ以テ副校長ヲ大西兄ニ依頼ス集
ルモノ凡ソ百三四十人説教後自宅ニ於テ執事并安息日学校教
師ヲ集メテ同校改良ノ相談ヲ為ス

午後番町講義所ニ於テ説教ス聴衆凡ソ六七十人

説教後番町講義所維持ノ相談ヲ開ク

森氏宅ニテ夕飯ヲ喫シ夜又説教ス兩強キニ集ルモノ少カリシ
過日来特別ニ聖靈ノ恩寵アラシキヲ祈リシ未ダ祈リノ精神
十分ナラサリシ故カ説教ニ甚タ力乏キヲ覺ユ是ヨリ一層心ヲ
決シテ大能ノ神ニ祈ラントス願クハ余カ信仰弱キヲ助ケ給ヘ

同二十日 月 曇

午前八時比岡田氏熊本ヨリ六年ブリニ上京シテ來訪ス懇談時
ヲ移シテ正午ニ至ル夫ヨリ來客打続キ夕刻ニ及ブ

夜肥塚氏ヲ訪フ

同廿一日 火 曇

今朝ハ大ニ冷氣ヲ覺ユ

午前會堂ニテ切ニ祈禱ス深ク自己ノ信仰ノ冷淡ナルヲ感ス

午後ヨリ數人ノ來客アリ五時比ヨリ長田兄送別會ヲ田町西洋
料理店ニテ開ク會スルモノ十有九名頗ル盛會ナリシ夜読書ス

同二十二日 水 雨

午前九時番町講義所ニテ婦人ノ集ヲ開ク
午後四時過キヨリ海老名湯淺松山之諸君ト相會シ部會ノ規則

ヲ相談ス
夜例ノ如ク三好氏宅ニ会ス

同二十三日 木 雨

本日ハ秋氣皇靈祭ニテ諸学校休暇ナリ

午前スベン子ル氏ヲ始メ二三ノ来客アリ

午後岡田氏来訪ス

本日終日気分宜シカラズ夜祈禱会アリ稍恩寵ヲ感シタレトモ

尚ホ信徒ノ眠甚シキヲ覺ユ

主ヨ先ツ此僕ノ信仰ヲ復興シ給ヘ

同二十四日 金 雨

午前九時麻布長田氏宅ニテ婦人ノ集ヲ開ク爾来余之ヲ司ルコトトス

午後二時ヨリ外務省ヘ行キ古澤氏ニ面会シ岡田兄之事ヲ依頼

ス又岡部氏ニ面会シ種々ノ談ヲ為ス

帰路海老名氏ヲ訪ヒ継憲及竹越氏之事ヲ相談ス

夜番町之祈禱会ニ会ス雨天ニテ集ルモノ平常ヨリ少ケレトモ

熱心ナル祈アリテ甚タ有益ナル会ナリシ本日長田兄神戸ヘ向

テ出張ス

同二十五日 土 大風雨

昨夜ヨリ大風雨幾ト眠ルヲ得サリシ午前会堂ニテ祈禱ス

午後来客多クシテ何事ヲ為スヲ得サリシ

夜説教ノ支度ヲ為ス

自ラ省ルニ此迄不正直ノ事ヲ為セシコト少カラズ且ツ怠慢ニシテ日ヲ送ルコト多キヲ覺フ願クハ慈悲ノ神此罪深キ僕ノ罪

ヲ赦シ聖靈ヲ降シ爾ノ榮ヲ顯ハサシメ給ハシコトヲアームン

同廿六日 日 雨

午前会堂ニテ説教ス雨天ニテカ集ルモノ甚タ少シ余ノ説教尚

ホ力ナキヲ覺フ

午後番町ニテ説教ス桜井学校之生徒多来リシヲ以テ頗ル賑カ

ナリシ

説教後之会説ハ人少キヲ以テ休会ス

夜之説教海老名兄ニ依頼ス余ハ自宅テ説書ス

同廿七日 月 雨

午前自宅ニテ説書ス

午後海老名、徳富、谷田、津田、中村、国府寺、九鬼、小池

ノ八氏ヲ訪ヒシニ何レモ不在病氣等ニテ面会スルヲ得サリシ

唯小池氏ノ妻君ニ面会セシノミ

夜青木氏ヲ訪ヒタルモ不在ナリシ故富田氏ヲ訪ヒ九時過キマ

デ話シテ帰ル同氏ノ妻君ハ次ノ安息日ヨリ出席スルコトヲ約

セラル

同廿八日 火 朝小雨後晴

午前早朝海老名兄ヲ訪フ帰宅後説書ス

午後徳富氏来訪ス夫ヨリ本郷田口氏ヲ訪ヒ種々話ヲ為シテ夜

ニ至ル晚餐ノ饗ニ与ル

帰路桂太郎氏ヲ訪フ凡ソ四十分間教ノ話ヲ為シテ帰ル

本日本海老名兄新瀉ニ向テ出発ス但シ同所教会設立式ニ臨マン

為メナリ

同廿九日 水 雨

午前九時ヨリ番町講義所ニ於テ婦人集ヲ開ク集ル者平常ヨリ多シ

午後二時神田山鹿氏府下牧師伝道士之相談会ヲ開ク

帰路植村氏宅ヲ訪テ帰ル

同三十日 木 雨

午前十時比ヨリ本郷湯島ニ行キ今回海老名兄講義所ノ為メニ借受ケタル家ヲ觀津田仙先生ト雜作并ニ家具之受取渡ヲ為ス津田先生ト共ニ午飯ヲ食ス

帰路警廳社ニ立寄り又経済雜誌社ニ立寄り伴氏ヲ訪フ

夜新会堂ニテ始メテ祈禱会ヲ開ク但シ此ヨリ尙週間連夜ノ祈禱会ヲ為ス積リナリ集ルモノ二十余人皆ナ熱心ナル勸及祈禱ヲ為ス思フニ神ハ必ス今夕之祈禱ヲ聴マシメシ給ヒシナラン願クハ此祈禱会ヲ祝シ給フテ信徒各二十分ノ恩寵ヲ降シ給ハシコトヲアーム

本月ハ暑中休暇後精神未タ十分前ニ恢復セズ十分ノ働ヲ為ス能ハサリシ以後来月ヨリハ十分ノ働ヲ為サントス願クハ此信薄キ僕ヲ祝シ給フテ来月ノ働キヲ恩ミ給ハシコトヲ

十月一日

十月一日 金 晴

午前湯淺氏ヲ訪フ帰宅後會堂ニテ説教ノ支度ヲ為ス

午後長田兄宅ニテ執行アル裁縫所開業式ニ會ス

澤井氏開場シ趣意ヲ述ブ余後ニ祝詞ヲ述フ

夜番町祈禱会ニ出席ス此夜靈南坂會堂ニテ祈禱会アルモ止ム

ヲ得ズ番町ニ會ス頗ル熱心ナル祈禱アリタリ

同二日 土 晴

午前山中氏始メ四五名ノ來客アリ後會堂ニテ祈禱ス

午後四時過キヨリ自宅ニ於テ安息日学校改良ノ相談会ヲ開ク

夜例ノ如ク三教會ノ祈禱会アリ集ルモノ凡ソ百名許頗ル熱心ナル祈禱アリタリ

同三日 日 晴

午前九時ヨリ安息日学校アリ集ルモノ凡ソ百余人十時半ヨリ説教ス聴衆凡ソ百四五十人

午後二時ヨリ番町會堂ニテ説教ス聴衆凡ソ六十余名婦人ニテ新ニ來ルモノ多シ

同四時ヨリ有志者ノ為メニ講義ヲ為ス

夫ヨリ和田垣氏宅ニ趣キ夕飯ヲ喫ス本夜ハ婦リテ靈南坂町會堂ニテ説教スヘキノ処番町ニテ説教スヘキ人ナキヲ以テ止ムヲ得ズ此ニ止マリテ此夜説教ス

同四日 月 午後ヨリ雨

午前在宅午後來客多クシテ何ヲモ為ス能ハサリシ

夜祈禱会ハ來會者甚タ少カリシモ頗ル熱心ナル祈禱アリタリ

同五日 火 午前雨

午前在宅午後來客アリ四時比ヨリ和田垣、島田、三好、森、森本、徳富、青木ノ七氏ヲ訪フ

夜例ノ如ク會堂ニテハ祈禱会アリ會スルモノ二十名何レモ熱心ナル祈禱ヲ奉リ尚ホ一週間之ヲ統ケントスルノ説アリ賀スベシ

同六日 水 晴

午前八時松山兄ト共ニ家ヲ発シ汽車ニ乗リ上州前橋ニ行ク午
後二時比着

不破氏宅ニ夕飯ノ饗ニ与ル

午前〔後〕七時過キヨリ劇場ニ於テ演説会ヲ開ク不破氏先ッ
開会ノ趣意ヲ述ブ然ルニ其演説中警官突然来リテ演説ヲ中止
ス何事ナラント尋子シニ新原氏等俄カニ説教スル管ナリシヲ
先キニ警官カ許可シタルヲ止メメン為メナリシ

次キニ余講壇ニ上リテ將ニ演セントスルニ当リ警官又突然余
ヲ呼テ余カ身分及ヒ職業ヲ問フ思フニ警官ハ何カ怒レルコト
アリシニヤ其怒ヲ遷セシナラン

今回余カ演説タルヤ言語甚タ不整頓趣意十分暢達セズ且ツ其
精神甚タ乏シカリシ

次キニ松山兄演説セシニ頗ル上出来キナリキ

九時比閉会ス此夜海老名兄ノ演説モアル管ナリシガ新潟ヨリ
帰路少々後レシヲ以テ遂ニ此会ニ臨ムコト能ハザリシ

同七日 木 晴

午前十時ヨリ仮会堂ニ於テ設立式相談会ヲ開ク海老名兄議長
トナリ深澤氏答弁者トナリ諸代員ノ質問ニ答フ後ニ代員ノ会
議ヲ開キタルニ設立ヲ賛成スルコトニ決ス

午後二時ヨリ設立式ヲ行フケレー氏説教松山氏教会ヘ勸メ星
野氏牧師ヘ勸メ杉田氏牧師握手不破須田ノ両氏聖餐ノ式ヲ司
ル集ルモノ百四五十名

午後五時ヨリ同処ノ臨江閣ニ於テ懇親会ヲ開ク集ルモノ百余

名共ニ夕飯ノ饗ニ与ル久保田海老名星野ノ三氏ト余感ヲ談ス
八時過キ退散ス

同八日 金 晴

午前七時過キ馬車ニテ前橋ヲ発ス高崎ヨリ汽車ニ乗リ替ヘ同
十一時比磯部ニ着ス夫ヨリ直ニ原市ニ至リ半田氏宅ニテ午飯
ヲ喫ス

午後二時ヨリ会堂説教会ヲ開ク新原氏開会ノ趣意ヲ述ベ星野
海老名松山三兄ノ説教アリ余終リニ短キ勸メヲ為ス

同九日 土 晴

午前九時ヨリ会堂ニテ建会式ノ相談会ヲ開ク松山兄議長ニ当
撰ス宮口氏原市伝道ノ来歴ヲ述ブ又答弁員トナリテ諸議員ノ
質問ニ答フ後チ議員ノ相談会ヲ開キ建会ヲ賛成スルコトニ決
ス

午後一時ヨリ建会式ヲ行フ海老名兄先ッ説教ス

余ハ本日中必ス帰宅セサルヲ得サルカ故ニ止ムヲ得ズ式執行
中午後二時過キヨリ発足シ安中三時二十一分発ノ汽車ニ乗リ
四時比高崎ニ着シ夕飯ヲ喫シ五時八分発ノ汽車ニテ東京ニ帰
ル家内一同無事喜テ余ヲ迎フ夫婦神ニ感謝ス此行ヤ神ノ恩寵
ヲ蒙ルコト少カラサリシモ深ク之ニ感激スルコトヲ為サズ聖
靈ノ神ヲ憂ヘシメタルコト少カラサルナリ願ハ神ヨ此僕ヲ憐
ミ給ヘ

同十日 日 晴

午前九時安息日学校生徒八十余名同十時過キ説教集ルモ
百一二十名

午後二時ヨリ番町會堂説教精神甚乏シカリシ蓋シ支度ノ不足ナルニ因ルナラン四時講義

夜説教集ルモノ凡四十名甚タ信仰ノ乏キヲ感ス

同十一日 月 晴

午前九時ヨリキリスト教新聞社説ノ起稿ニ従事ス午後三時過キ之ヲ終ル

午後四時比ヨリ飯島氏及徳富氏ヲ問フ

夜祈禱會アリ集ルモノ凡十七八名ナリシ皆ナ熱心ナル祈ヲ為シテ甚タ有益ナル會ト覺ユ

余ヤ自ラ己ノ信仰ノ甚タ乏キヲ感ス願クハ聖靈ノ神ヨ此僕ヲ助ケ十分聖靈ヲ□□リ給ハンコトヲ

同十二日 火 曇

午前會堂ニ行テ聖書ヲ讀ミ祈禱ス自ラ省ルニ信望愛ノ乏キハ勿論常ニ怠惰優々不斷ニシテ何事ヲモ勉強スルコトナク且ツ情欲ニ負クルコト多キモノナリ人ヲ励マントセバ先ツ自ラ励マサル可ラズ斯ル不信不熱ノ者ニシテ争デ教會ヲ誘導スルコトヲ得ン願クハ此僕ヲ憐ミ聖靈ノ恩祐ヲ十分降シ給ハンコトヲ

午後庭内ニ植木ヲ植ヘナド致シ三時比ニ至ル

午後四時コクラン氏ヲ訪フ

夜祈禱會ニハ集ルモノ凡ソ二十名許リシモ尚ホ熱心ノ祈ヲ為スモノ少シ神ヨ此ノ死セルカ如キ教會ヲ憐ミ其信徒ヲ其眠ヨリ醒シ給ハンコトヲ

會後又独リ祈禱ス

此夜途中ニテ大ニ発明スルコトアリ即チ信徒ノ中ヲ見舞フヘキコトナリ爾後杉山氏ニ計リ共ニ信徒一同ノ家族ヲ見舞フコトヲ為スベシ

同十三日 水 曇

午前在宅

午後來客ノ為メ半日ヲ費ス

夜三好氏ノ宅ニ赴ク

同十四日 木 雨

午前在宅

午後山崎氏ヲ訪ヒ少シク勸ムル所アラントセシガ他ノ人來リ居シニ因リ遂ニ果サズシテ帰ル

夜祈禱會アリ集ルモノ多カラサレドモ頗ル有益ナル集リナリシ本日大ニ発明スル所ハ余カ祈禱ノ精神尚ホ甚タ微ナリシコトナリ余此ヨリ猶大奮發シテ神ニ祈ラサル可ラズ神ヤ必ズ余ヲ試ミ給フナラン一方ニ在リテ甚タ驚クハ信徒睡眠ノ深キコトナリ二週ノ間之ヲ醒サントシタルモ少シモ感格ナキカ如クサレド自ラノ事ヲ思ヘバ亦斯ノ如キモ理リナリト信ズ何トナレバ自ラ眠リナガラ人ヲ醒サントスルモ争テ之ヲ醒スコトヲ得ン寝トボケタル声ヲ以テ呼ブモ誰カ之ニ注目スルコト乎其眠ノ醒メサルモ亦当然ナリ願クハ神ヨ先ヅ我カ睡ヲ醒シ給ヘ余ヲシテ此小雜ニ避〔辟〕易スルコトナク尚ホ勇ミ進ンテ教會ヲ振起セシメ給ハンコトヲ

同十五日 金 晴

午前在宅湯淺海老名杉山之諸氏來リ訪ヒ空シク其時間ヲ費セ

リ

午後栗津氏宅ニテ松山令聞ノ今度神戸へ帰ラル、ニ付送別会ヲ催セリ集ルモノ凡ソ十七八人ナリシ

四時過キヨリ共存同衆ノ例会ニ会ス

夜番町祈禱会ニ赴ク集ルモノ凡ソ三十余名頗ル有益ノ会ナリシ

同十六日 土 晴

午前氷川神社内ニ行き説教ノ支度ヲ為ス

午後三時番町和田垣氏宅ニ於テ番町近傍信者ノ親睦会ヲ催フス集ルモノ凡ソ三十余名ニテ頗ル盛会ナリシ委員三名ヲ撰ビ教会設立ノ準備ヲ為サシム森和田垣国府寺ノ三氏当撰ス

同十七日 日 晴

午前十時半ヨリ会堂ニテ説教ス聴衆凡ソ百五十人許リト見受けタリ

説教後委員ノ集ヲ為シ教会中ノ事一二件ヲ議決ス

午後二時ヨリ番町ニテ基督ノ人物ヲ題トシテ説教ス聴衆凡ソ四十余名

夜靈南坂会堂ニテ連夜説教ヲ始ム集ルモノ七八十名何レモ耳ヲ傾ケ聴キ居タリ津田杉山ノ二氏勸メヲ為ス

本日五時比草間氏令息永眠ニ就ケリトノ報来ル右令息ハ二三日前ヨリ大病ナリトノ報アリシガ斯クマデ墓ナク死シ去ルト

ハ思ハサリシサゾカシ其一家ハ愁傷セシナラン

同十八日 月 晴

午前在宅同十一時ヨリ廣瀬氏ト共ニ横浜ナル草間氏ノ送葬ニ

会ス草間氏一家ハ神ノ恩寵ニ因リ案内ニ慰ヲ得ラレ居タリ

午後二時比ヨリ出棺住吉町会堂ニテ式ヲ行ヒ夫ヨリ墓地ニ向テ出發セリ嗚呼我神ニ感謝ス爾草間氏ノ一家ヲ恵ミ此不幸ニ

際シテモ真ノ慰ヲ与ヘ給ハンコトヲ

四時発ノ汽車ニテ帰宅ス

午後七時ヨリ例ノ如ク会堂ニテ説教ヲ始ム植村氏説教ス其言不分明ナリシトテ評スルモノアリタリ終リテ余少ク感スル所ヲ述ブ其跡ニ杉山氏感ヲ述テ会ヲ閉ツ

同十九日 火 雨

午前十一時発ノ汽車ニテ松山兄ノ令聞神戸ニ向テ出發ス午後松山岡田海老名ノ三兄来訪ス但シ海老名兄ハ明朝ヨリ西京ニ向テ出發セントス

夜説教アリ雨天ニテ来会者甚タ少シ余説教ス

帰宅後家族中ノ十分和睦セサルカ如キ実証アルヲ覺リ甚タ自己ノ罪大ナルヲ感ス願クハ神ヨ余ニ己ガ過罪ヲ悟リ之ヲ主ニ

謝スルヲ許サシメヨ我家ニ鞭ヲ加ヘサル先キニ家族ノ者共カ悔ヒ改ムルヤウ導キ給ヘアーメン

同廿日 水 曇

午前番町婦人集ニ会ス午後大学ノ哲学会ニ出席ス西村氏因明トロヂツクノ異同ヲ題トシテ講義ス

帰路和田垣氏ト森三好ノ二氏ヲ問フ三好氏頭痛ニテ臥ス夜スピン子ル氏ノ講義アリ

同二十一日 木 雨

午前在宅午後來客ニテ時間ヲ費セリ

夜説教アリ雨天ニテ来会者甚タ少シ然シ有益ナル会ナリシ
自ラ足ラサルコトヲ深ク感ス爾来時日ヲ無益ニ費スコトナク
活潑ニ伝道ヲ為サント欲ス神ヨ余カ薄弱ナルヲ助ケ給ヘ

同二十二日 金 曇雨

午前在宅午後二時ヨリ仲ノ町ニテ婦人ノ集アリ同四時過キ退
散ス

夜番町ノ祈禱会ニ会ス集ルモノ二十余名祈ルモノ甚タ少カリ
キ余カ熱心ノ不足ナルヲ感ス
今夜会堂ニテハ松山兄説教ス

同二十三日 土 曇

午前ハ雑誌ノ原稿ヲ認ムル積リシモ来客多クシテ認ムルヲ得
サリシ

夜説教ス甚タ無精神ナル説教ナリシヲ恥ツ尚ホ自ラ深ク反省
セサル可ラサルコトヲ感ス

同廿四日 日 晴

午前説教集ルモノ百余名通常ニシテ特別ノ感動ヲ与ヘサリシ
カ如シ

午後二時番町ノ説教ハ殊ニ不出来ナリシヲ恥ツ

説教後教会設立ノ相談ヲ為ス

夜靈南坂会堂ニテ説教ス集ルモノ甚タ少シ

余近来喜憂交來リ感スル所甚シ唯爾後大ニ勉強伝道ニ従事セ
サル可ラサルコトヲ感ス願クハ神ヨ余ヲ助ケ給ヘ

同廿五日 月 雨

午前六合雑誌ノ原稿ヲ認ム午後又同事ヲ為ス

夜番町イーストレーキ氏講義所ノ連夜説教会ニ行キテ説教ス
此雨天ニモ係ハラズ集ルモノ凡ソ百名許リ実ニ盛会ト謂フベ
シ退イテ我教会ノ連夜説教ト比較スレバ雲泥ノ差アルヲ見ル
我会堂ノ不便利ナル所ニ在ル其盛会ナラサリシ一因ナル可シ
ト雖モ亦之ヲ開クノ方法宜シキヲ得サルコトト教会ノ不精神
ナル其重因ナラサル可ラズ豈ニ深ク反省セサルヲ得ンヤ余ヤ
近来已ノ不足ヲ感スルコト甚シク幾ト失望スル程ナルモ上ニ
大能ノ神アリテ吾人ヲ助クルトノ御約束アルヲ思ハバ何ゾ奮
激セサルヲ得ンヤ

同廿六日 火 雨

午前在宅来客アリ編輯ニ従事ス

午後三時過キヨリ野村氏ヲ訪フ二時間余懇切ナル談ヲ為ス夫
ヨリ青山六軒町木全氏ニ行キ松山杉山広瀬ノ三氏ト共ニ夕飯
ノ饗ニ与リ夫ヨリ種々ノ談ヲ為シ後教会ノ事ニ及ブ松山麻布
教会ノ信仰傲慢ナルヲ述ブ余等深ク之ニ感ス唯自己是迄ノ過
ヲ覚ルノミ爾後主ノ前ニ遜リ神ニ罪ヲ謝スル所アラントス願
クハ神ヨ此僕憐ミ給ヘ

同廿七日 水 晴

午前九時迄六合雑誌ノ原稿ヲ編輯ス夫ヨリ番町講義所婦人集
ニ赴ク

午後杉山兄ト共ニ高橋出島草野町田之四氏ヲ訪ヒ共ニ感スル
所ヲ話シ祈禱ス訪問伝道ノ有益ナルヲ感シ益スル所少カラサ
リキ

夜三好氏宅之集ニ会シタルモスピン子ル氏来ラズ九時比帰宅

ス

同廿八日 木晴

午前在宅

午後山崎、佐伯、高崎ノ三氏ヲ問フ四時ヨリ海老名、湯淺、松山ノ三氏来リ今回海老名兄カ西京ノ評議ニテ定リタルコトヲ報シ此事ニ付共ニ相談ス

夜祈禱会アリ今回佐伯氏米國ニ向テ出發セルニ付共ニ祈禱ス頗ル有益ナル会ナリシ

同廿九日 金 雨

午前説教ノ支度ヲ為ス

午後婦人ノ集ニ会ス夜番町祈禱会ニ之ク熱心ナル祈アリ

本日佐伯氏米國ニ向ケ出發ス

同三十日 土 雨

午前在宅説教ノ支度ヲ為ス午後番町森氏ヲ訪ヒ色々教会設立ノ件ニ付相談ス夫ヨリ岡田氏ヲ訪ヒ共ニ神田裏猿桑町藤島氏ヲ訪フ留守ナリシヲ以テ早速帰宅ス

同三十一日 日 晴

午前会堂ニテ説教ス集ルモノ凡ソ平常ノ通りナリ高フルコトニ付キ説教ス唯十分ノ精神ナカリシヲ遺憾トス午後番町ニテ説教ス愛ニテモ十分ノ精神ナカリシヲ覺フ説教後馬太伝ノ会読ヲ為ス

夜和田垣氏宅ニテ食事ヲ為シ再ヒ会堂ニ出ツ海老名兄説教ス数日来種々ノ感覺起リタルモ未タ熱セサル所アルニヤ十分之ヲ説教ニ現ハスヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

本月ハ種々ノ經驗ヲ得大ニ益スル所アリト覺フ尚ホ主ノ恩寵ニ依リ十分ノ功ヲ奏スルコトアランコトヲ願フ

十一月一日

十一月一日 月 曇

午前在宅新聞ノ原稿ヲ認ム

午後四時比ヨリ築地松山兄宿所ニ行キ種々伝道上ノ話ヲ為シ後チ一身上ノ事ニ付諸氏ノ評論ヲ聞ク海老名兄ヲ熊本ヘ招クノ議アリシモ東京伝道ノ機会失フ可ラサルカ故先ツ同兄ハ東京ニ止ルニ決ス

余一身上ノ欠典ニ諸兄ノ評アリシハ第一、人ヲ感化誘導スルノ力乏シキコト第二、果斷決行ノ精神ノ乏シキコト第三、説教ニ適実ノ話少キコト等ナリ

自ラ省ルニ余ノ失タルヤ一ニハ不勉強ニハ事ヲ遷延スルノ弊三ニハ優々不斷決心ノ乏シキコト四ニハ怯懦ニシテ勇氣ニ乏キコト其ノ重要ナルモノナルカ如シ又今日迄ノ事跡ヲ自ラ回想スルニ其ノ聊カ事業ノ成跡ヲ現ハシタルハ熊本ニテ小学ノ教授ヲ為セシコトト東京ニテ新聞ヲ起セシコトヲ除クノ外皆ナ失敗ヲ取リシト為サ、ル可ラズ素ヨリ馭才ニテ事ヲ成スノ力アラサルバ明白ナルコトナレドモ精神一到何事不成唯此迄失敗ノミ多キハ未タ精神ノ到ラサルト常ニ傲慢ニシテ神ノ祐助ヲ受クルノ少キニ基イスルナラン爾来唯期スル所ハ力ノアラン限ヲ尽クシ此土器ニ十分ノ聖靈ヲ受ケンコトナリ願クハ神ヨ此ノ不忠ノ僕ヲ憐ミ全ク其罪ヲ悔ヒ十分ノ恩祐ヲ与ヘ

給へアーメン

同二日 火 午前兩午後晴

午前湯淺兄ト共ニ矢野ヲ訪ヒタレトモ留守ニテ面スルヲ得サ
リシ帰路又島田氏ヲ訪ヒタルモ氏モ又留守ナリシ夫ヨリ警廳
社ニ至リ杉田氏ニ逢ヒ婦リ途洋服店ニ至リ洋服ヲ注文シ午後
二時比帰宅ス
在宅訳翻物ヲ為ス

夜上野氏宅ニテ教会ノ相談会ヲ開ク來十二日ニ牧師撰定式ヲ
行フコトニ決ス

同三日 水 晴

本日ハ天長節ニテ午前ヨリ家内ノモノ繰出払ニテ觀兵式ヲ見
物ニ出テ余ハ昼前マテ留守ヲ務メタリ夫ヨリ番町森氏宅ニ至
リ夫ヨリ植村氏宅ニ至リ新聞改良之事ヲ相談ス

帰路又森氏宅ニ立寄り建會式之事ニ付相談ス

午後三時ヨリ會堂ニテ祈禱會ヲ開ク集ルモノ二十余人熱心ナ
ル會ニテ益スル所少カラズ

夜又番町ノ祈禱會ニ出ツ集ルモノ凡ソ二十五六名近來ニ稀レ
ナル盛會ニテ甚タ熱心ナル祈アリシ

余ハ先日ヨリ恩寵ヲ蒙ルコト少カラサ〔リ〕シカ本日ニ至リ
愈多ク蒙レルカ如シ豈ニ深ク感謝セサルヲ得ンヤ唯願フ所之
ニテ満足スルコトナク又誇リテ聖靈ヲ憂シムルコトナク愈進
ンテ益々其恩寵ヲ蒙ランコトナリ

帰途和田垣兄ニ少シク忠告スル所アラントシタルモ勇氣之シ
ク遂ニ果サ、リシ帰宅後直ニ書ヲ認メテ之ヲ申シ送ル神ヨ願

クハ此書ヲ恵ミ給へアーメン

同四日 木 晴

午前在宅聖書之友之目錄ヲ反訳ス

午後二時ヨリ三好氏宅ニ行キ奥様ニ面會ス夫ヨリ朽木氏ヲ訪
ヒ種々教ノ話ヲ為ス但シ例ノ如ク信仰ノ不十分ナルヲ覺フ

午後七時ヨリ會堂ニテ祈禱會ヲ開キタルニ著シキ聖靈ノ恩寵
アリ甚タ有益ナル會ナリシ但シ間ニ少々激スル人モアリタル
ガ思フニ必ズ神ノ恩寵ニヨリ都合ヨク運ブナラント信ス兎角
斯ノ如キ時ニハ惡魔ノ誘導アルモノナレバ吾人ハ成ルヘク注
意シ目ヲ醒シテ祈ラサル可ラズ

嗚呼神ヨ此ノ無益ニシテ且ツ怠タレル僕ヲ憐ミ此大機會ニ臨
ミ過ルコトナク十分ノ注意ヲ為シ教會ヲ導カシメ給ヘンコト
ヲ

同五日 金 晴

午前杉山氏ト共ニデフォレスト氏ヲ訪ヒタレトモ留守ニテ面
會スルヲ得サリシ

夫ヨリ山崎氏ヲ訪ヒ種々話ヲ為シ共ニ祈禱ス大ニ益スル所ア
リシ

夫ヨリ又デフォレスト氏ヲ訪ヒタレトモ留守ニテ面會ヲ得サ
リシ
午後五時前ヨリ番町講義所ニ行キ教會設立ノ事ニ付種々規則
等ノ相談ヲ為ス

相談會後直ニ祈禱會ヲ開ク熱心ナル祈アリシモ概シテ云ハバ
十分ト云ヒ難キノ集リナリシ唯吾人カ尚ホ熱心ニ祈ラサル可

ラサルコトヲ感スルノミ

同六日 土 晴

午前八時前マデ眠ル九時比ヨリ新聞ノ編輯ヲ為ス

二時過キヨリ本郷海老名兄講義所ニ行キ演説ス本日ハ朝ヨリ多忙ニテ寸暇ナク十分演説ノ準備ヲ為スノ間ヲ得ズ甚タ不完全ナル演説ヲ為セシハ神ニ対シ偏ヘニ其罪ヲ謝スル所ナリ夫ヨリ牛込小池氏宅ニ行キ色々道ノ話ヲ為ス氏モ大ニ感スル所アリタルカ如シ

夜九時前帰宅ス夫ヨリ講義ノ支度ヲ為ス

同七日 日 曇

午前会堂ニテ説教ス一ハ昨夜ヨリノ疲労ト一ハ祈禱ノ不足トニ依リ甚タ不満足ナル説教ヲ為セリ実ニ近来ハ失敗ノミ多クアルハ偏ニ神ニ謝セサルヲ得サル所ナリ男一人女三人受洗ス後聖餐ノ式ヲ守ル集ルモノ通例ヨリ少カリシ

午後二時ヨリ番町ニテ説教ス此説教ハ午前ニ比スレバ稍力アリタルカ如シ

夜祈禱会アリタリ此祈ハ万国伝道ノ為メナリシガ集ルモノ甚タ少キモ其祈リハ頗ル精神アリタリ

同八日 月 晴

午前在宅

午後二時ヨリ湯浅氏ト共ニ木全氏ヲ訪ヒ同氏ノ植木ヲ観ル夜三好河野ノ両氏来訪ス其後水野広瀬ノ両氏ト戸川小鹿女来訪ス

後水野氏ト共ニ祈禱シテ分ル

同九日 火 晴

午前在宅書状ヲ認メ且聖書ヲ読ム

午後テフオレスト氏来訪シ同氏ト共ニ新橋ステシヨンニ行キカルチスホワイトノ両氏ノ来着ヲ迎フ

夫ヨリ高崎氏ヲ訪ヒ又帰宅シテ後井深氏ヲ訪ヒ夫ヨリ柳谷氏方プリンス女ヲ訪フ

夜隣家服部氏ノ招キニテ晚餐ノ饗ニ与ル

同十日 水 晴

午前九時ヨリ番町婦人集ニ行キ夫ヨリ北沢氏ヲ訪フ但シ北沢氏女ノ洗礼ノ事ニ関シテナリ

午後外務省ニ行キ古沢氏ニ面会ス

夫ヨリ平岩氏ノ妻君ノ葬送ニ会ス

夜内藤氏ヲ問フ

同十一日 木 大雨

午前北沢氏ニ面会其女洗礼ノ事ニ付色々話シタルモ之ヲ承認スルノ模様ナシ同女ノ為メニ嘆スヘキコトナリ

午後大雨ニテ外出スルヲ得ズ

夜祈禱会アリ大雨ニテ来会少キモ熱心ナル集ナリシ

同十二日 金 大風雨

午前十時過キヨリ会堂ニテ牧師就任之相談会ヲ開ク上州地方ヨリ来レルモノ凡ソ十名大雨ニ付キ会員ノ来集スルモノ甚タ僅少ナリシ杉田兄議長ニ撰マレ上野氏委員トナリテ答弁シ十二時過キニ閉会ス

委員其他二三ノ人ニ自宅ニテ午飯ヲ出ス蓋シ教員ノ饗ナリ

二時過キヨリ就任式ヲ執行ス井深兄ノ説教松山兄ノ祈禱不破兄ノ握手ノ礼スカッドダル兄ノ牧師ノ勸杉田兄ノ教会ヘノ勸メニテ午後四時過キ散会ス夫ヨリ梅林亭ヘ行キ委員并其他ノ人ニ夕飯ヲ出ス

同夜番町講義所ニテ教会建設ニ付キ相談会ヲ開ク松山兄議長トナリ森氏答弁委員トナリテ答弁ス九時過キ散会ス

本日ハ生憎ノ天氣ニテ昨夜ヨリノ大風雨人々外出スルヲ得ズ故ニ兩所共來会者甚タ僅少ナリシ

同十三日 土 晴

午前在宅

午後二時ヨリ番町講義所ニ於テ教会設立ノ式ヲ行フ松山氏司会者トナリ説教ハ海老名兄之ヲ務メスピ子ル氏ノ祝詞新原氏ノ教会ヘノ勸メニテ午後四時半過キ会ヲ閉ヂ茶菓ヲ饗ス本日洗礼ヲ受ケシモノ大人七人小兒六人都合十三名集會者凡ソ二百三四十名実ニ立錫ノ地ナク非常ノ盛會ナリシ夜三好氏ニテ夕飯ヲ喫ス

同十四日 日 朝雨午後晴

午前會堂ニ於テ杉田兄説教ス聴衆凡ソ百余名其説教ハ甚タ適當ナルモノナリシ

午後番町ニテハ新原兄説教ス此説教モ亦有益ナルモノナリシ夜迂生靈南坂會堂ニテ説教ス聴衆凡ソ二十余名

同十五日 月 晴

午前青木氏ヲ訪ヒノルマントン号沈没事件ニ付キ質問ス夫ヨリ築地海岸女学校ニ到母君ノ病ヲ訪フ

帰路毎日新聞社ニ立寄り島田氏ヲ訪ヒ前上ノ事件ニ付相談ス午後警醒社ニ立チ寄りノルマントン号沈没事件ニ付津田青江之諸氏ト相談ス夫ヨリ築地ニ至リ井深氏ヲ訪ヒ又イムブリーナックス両氏ヲ訪フ

夫ヨリ共存同衆ノ集會ニ赴ク

同十六日 火 晴

午前在宅

午後昨日ノ約束ニ從ヒ上野氏宅ニ會シテノルマントン号沈没事件ニ付キ相談ヲ開キ其事実ヲ明ニシテ欧米ノ諸學者ニ訴フルコトニ決ス夫ヨリ警醒社ニ歸リ新聞広告ノ交渉ヲ為ス

夜神田山鹿氏宅ニ於テ説教會ノ相談ヲ為ス

十一時比婦宅ス

同十七日 水 晴

午前高崎氏ヲ訪ヒ新富座借入レノ事件ニ付相談ス

午後書狀ヲ認メ且ツ讀書ス

夜仲ノ町會堂ニテ説教ス頗フル感スル所アリ

同十八日 木 大風雨

午前在宅新聞ノ原稿ヲ制ス午後富田氏ヲ訪ヒ又井深氏ヲ訪ヒ午後六時過キ婦宅ス

夜宅ニテ祈禱會ヲ催フ人少ナリト雖モ有益ナル集ナリシ

同十九日 金 晴

午前碌々トシテ貴重ノ時間ヲ浪費ス

午後二時ヨリ婦人集ニ行キ其會ヲ司ル

同五時半過キヨリ三好氏宅ニ行キ聖書ノ講義ヲ為シ夫ヨリ番

町講義所ニ於テ祈禱会ヲ催フス
同廿日 土 晴

午前在宅新聞原稿ヲ起草ス

午後ノルマントン号沈没事件ニ付森本兄下宿ニ於テ相談会ヲ
開ク

夜宅ニテ説教ノ支度ヲ為シ後祈禱ス自己ノ罪不足ヲ感スルコ
ト甚シ又切ニ聖靈ノ恩祐ヲ祈レリ神ハ必ず此僕ノ祈禱ヲ聴コ
シメシ給ヒシコトト信ス

〔裏表紙〕

精神一到何事不成

小崎弘道

〔明治十九年〕

六月廿八日

一金二拾錢

人力車

一〇七錢

船賃

一〇七錢

午飯

一〇四拾八錢

人力車

一〇五拾二錢

船賃

一〇八錢

食事

同廿九日

一〇拾錢

食事

一〇五拾五錢

人力車

一〇六錢

東京赤坂区溜池
櫻坂町五番地

〔表紙〕

明治十九年十一月

日記第四

明治十九年十一月廿一日

十一月廿一日 日 晴

午前九時番町会堂ニテ説教後チ聖晩餐ノ式ヲ守ル其後直ニ帰
リ靈南坂会堂ニテ説教ス番町集ルモノ凡ソ六十名靈南坂会堂
凡ソ百三四十名何レモ盛會ナリシ但シ番町ニテハ始メテ聖晩
餐ノ式ヲ守リシニ由リ不整頓ノ所少カラサリシ

午後野村氏ヲ訪ヒ父子ニ面會シ種々教ノ話ヲ為ス

夜靈南坂町会堂ニテ講義ス本夜有楽町会堂ニテ祈禱會アリシ
ヲ以テ信徒多ク之ニ赴ク余モ行クヘキ筈ナリシヲ怠惰ニテ行
クコトヲ止メタリ跡ニテ之ニ行カサリシ罪ヲ悟リ大之ヲ悔ニ
依テ独リ祈禱ス

同廿二日 月 晴

午前に宅午後警醒社ニ行キ半日ヲ費ス夜三好氏ノ集リニ行ク
筈ナリシモ有楽町会堂祈禱會ヲ司ルコトヲ依頼セラレシニヨ
リ止ムヲ得ズ之ヲ断リ同所ヘ行ク集ルモノ凡ソ七八十名頗ル
熱心ナル祈アリシ

同廿三日 火 晴

午前三田小浦氏ニ行キ共存同衆館ヲ借用スルコトヲ相談ス
午後警醒社ヘ行キ夫ヨリ末松氏ヲ問ヒ又番町植村氏ヲ訪ヒ帰

路又森本氏ヲ問フ

夜宅ニテ書状五六通ヲ認ム後チ原稿ヲ認ムル筈ナリシモ遊戯
ニテ時間ヲ費セリ

同廿四日 水 晴

今朝始メテ霜ヲ見ル午前番町ニテ婦人集リアリ夫ヨリ内務省
ニ至リ宇川氏ニ面會ス
午後在宅

夜内藤氏來訪ス

同廿五日 木 晴

午前六合ノ原稿ヲ起草ス
午後三時ヨリ共存同衆館ニ於テノルマントン号沈没事件ニ付
相談會ヲ開ク津田、青江、上野、中島、宇川等ノ諸氏來會ス
三好氏ヨリ忠告ニヨリ外国ヘ書状ヲ出スコトヲ中止ス
夜祈禱會アリ頗ル有益ナル會ナリシ

同廿六日 金 雨

午前に宅午後二時ヨリ粟津氏宅ニ於テ婦人集アリ集ルモノ俄
カニ二三人甚タ微々タル會ナリシ

帰路一寸富田氏ヲ訪フ又午後五時比ヨリ三好氏宅ニ行キ聖書
ノ講義ヲ為シ夫ヨリ會堂ニテ祈禱會ヲ開ク集ルモノ凡ソ三十
余名頗ル有益ナル會ナリシ

同廿七日 土 晴

午前に宅午後壹時ヨリ山王八園地内清風亭ニ於テ靈南坂番町
兩教會ノ親睦會ヲ開ク集ルモノ百余名甚々盛會ナリシ夜基督
教新聞ノ原稿ヲ認ム

同廿八日 日 晴

午前九時ヨリ番町会堂ニ集リ海老名兄説教ス夫ヨリ靈南坂会堂へ歸リ説教ス一昨日ヨリ少シク風邪ノ気味アリテ十分発声スル能ハサリシ

午後尙時過キヨリ厚生館ニテ開ケル祈禱会ニ出デ司会ヲ依頼セラレ跡ニテ少シク勸メヲ為ス

夜番町会堂ニテスピソ子ル氏婦人ノ位置ヲ題トシテ講義ス集ルモノ凡ソ百余人

同廿九日 月 雨

午前在宅

午後尙時過キヨリ明治会堂ニ出ツ本日ハミユラル氏来ル管ナリシ所通信ノ相違ヨリ遂ニ来ラザリシ

夜中野氏ヲ訪フ

同三十日 火 晴

午前在宅

午後宅ニテ婦人集リアリシモ来ルモノ僅カニ一人ニテ別ニ集ルト云程ノモノナラサリシ

夜番町丹羽氏ヲ訪ヒ種々教ノ話ヲ為ス必ズ感スル所多カリシナラント信ス爾来火曜日ノ夜毎ニ同氏ノ宅ニ行キ話スルコトニ定ム

十二月

同一日 水 晴

午前在宅

午後三時ヨリ牛込山伏町尺振八氏ノ葬式ニ会葬ス後小池氏ヲ訪フ爾来毎月曜日午後三時ヨリ話シニ行クコトニ決ス夜仲之町講義所ニテ説教ス

同二日 木 曇

午前六時過キヨリ赤坂屯町目ニ火事アリタリ

同十時比グリーン氏横浜ヨリ来着ス

午後二時ヨリ弓町ニテ田村氏帰朝ノ祝会ヲ催フス

夜会堂ニテ祈禱会アリ

同三日 金 晴

午前在宅午後一時ヨリ厚生館ニ於テ大説教会アリ余司会者トナリフルベツキ海老名カクランノ三氏説教ス聴衆凡ソ千二三

百近來ノ盛会ナリシ

夜番町三好氏宅ニ行キ講義ヲ為シ夫ヨリ会堂ニ於テ祈禱会ヲ催フス

山中茂氏横浜ヨリ来リ今夜一泊ス

今朝ヨリ毎朝午前六時ヨリ祈禱スルコトヲ始ム

同四日 土 晴

六時ヨリ祈禱午前在宅新聞原稿ヲ調フル管ナリシモ来客ノ為

メニ妨ケラレテ十分調フルヲ得サリシ

グリーン氏横浜ヨリ来ル共ニ午飯ヲ喫シ厚生館ニ至リ説教ヲ

聞キ夫ヨリ上野ニテ開ケル同志社同窓会ニ臨会ス

午後八時過キ帰宅ス

同五日 日 晴

午前六時ヨリ祈禱同九時比ヨリ番町会堂ニ集リグリーン氏説

教ス集ルモノ平生ヨリ少シ

説教後安息日学校ヲ補助ス

本日靈南坂町ニテハ松山氏説教ス

夜番町ニテスピン子ル氏婦人ノ道德ヲ題トシテ演説ス可ナリ

ニ面白キ演説ナリシ

同六日 月 雨

午前六時ヨリ祈禱

朝飯後四五輩ノ来客アリタリ

午後三時ヨリ湯浅グリーン海老名(岡田)ノ四氏来リ共ニ伝

道上ノ相談ヲ為ス

夜番町三好氏ノ集リニ行キシモ少々時間後レタルヲ以テ甚タ

不都合ナリシ

同七日 火 晴

午前六時ヨリ祈禱ス

夫ヨリ読書ス又書面三通ヲ認ム

午後草野氏ヲ訪ヒタルニ已ニ横須賀ニ出発セラレタル跡ナリ

シ夫ヨリ長田ノ病人ヲ訪ヒ共ニ神ニ祈禱シタリ

夜番町丹羽氏ヲ訪ヒ種々教ノ話ヲ為シタリ

同八日 水 晴

午前在宅十一時過キ上野氏ヲ訪フ午後零時三十分比帰宅スグ

リーン氏横浜ヨリ来ル

クリーン氏ト共ニ外務省ニ至リ岡部氏ヲ訪ヒ数分間談話ス夫

ヨリ青木氏ヲ訪フタルモ用事アリテ面会ヲ辞サレタリ夫ヨリ

築地ニ至リ松山氏ヲ訪ヒ又ミユラル氏ヲ訪フタリ

夜松山岡部ノ両氏来訪ス

仲之町ニ行キ少シク話シタリ

同九日 木 晴

昨夜クリーン氏一泊ス朝クリトシ氏ト共富田氏ヲ訪ヒ夫ヨリ

大学ニ至リ校内ヲ一覽ス

夫ヨリ上野ニテ昼食ヲ為シ海老名氏ヲ訪ヒ又招魂社ニ行キ三

好氏ヲ訪フタリ

夜会堂ニテ祈禱会アリグリーン氏八時発ノ汽車ニテ横浜へ帰

ル

同十日 金 晴

午前山崎氏ヲ訪ヒ又上野氏ヲ訪フ午後二時ヨリ仲之町婦人集

リニ会ス

夜番町祈禱会ニ臨ム

同十一日 土 晴

午前在宅午後徳富氏熊本ヨリ着シ近隣ニ家ヲ構フ

夜新聞原稿ヲ認ム

同十二日 日 晴

午前九時番町会堂ニテ説教ス集ルモノ例ヨリ少シ夫ヨリ靈南

坂ニテ説教ス

午後休会ス午後五時ヨリ築地ニ至リミユラル氏ノ講義ヲ傍聴

ス夫ヨリ番町ニ至リスピン子ル氏ノ講義ヲ聞ク

同十三日 月 晴

午前編輯ニ従事ス

午後小池氏ヲ訪ヒ夫ヨリ三好氏ノ集リニ会ス

同十四日 火 大風雨

午前在宅午後ミユラル氏ヲ訪ヒ夫ヨリ秦氏宅ニテ開ケル感謝
会ニ行キ夫ヨリ秦氏ノ饗応ニ与ル

夜風雨ヲ冒シテ丹羽氏ヲ訪ヒ二時間余話ヲ為シテ帰ル

同十五日 水 晴

午前矢野氏ヲ訪ヒタルモ留守ニテ面会スルヲ得サリシ夫ヨリ
田村氏ヲ訪ヒ番町婦人集リニ会ス

午後仲之町ニ開ケル和田氏ノ送別会ニ至ル夫ヨリ八九名ノ人
ト共和田君ト食事ヲ為ス

夜共存同衆館ニ行キ和田氏カ教会ヘ注意セラレタル内ニ左ノ
三件アリ一ハ専任ノ牧師ヲ置カサル可ラサルコト二ハ教会ノ
負債ヲ返スコト三ハ事ヲ企ツルニ前以テ十分ノ支度ヲ為スコ
ト右ニ付キ余ハ一々之ヲ注意セサル可ラズ

同十六日 木 晴

午前二三ノ来客アリ

午後二時ヨリ愛隣会ノ集リニ行キ婦人ノ為メニ話ス

夫ヨリミユラル氏ノ説教ヲ聞キニ行キ婦人ニ同氏ヲ訪フタリ
夜祈禱会アリ徳富氏ノ一族来リタルヲ以テ集ル人ハ通例ヨリ
多カリシ

同十七日 金 晴

午前在宅基督新聞ノ原稿ヲ認ム午後仲ノ町ニテ婦人ノ集リア
リ本年ハ之ヲ以テ終結トス

夫ヨリ番町和田垣氏ヲ訪ヒ又森氏ヲ訪ヒ夫ヨリ三好氏宅ニテ
聖書ノ講義ヲ為ス

夜厚生館ニテ聖書ノ友ノ集アリミユラル氏聖書ノ大切ナル
コト及ヒ其説方ヲ演シ後田村氏ノ演説アリ

同十八日 土 晴

午前説教ノ支度ヲ為ス

午後北澤氏ヲ訪ヒ夫ヨリ富見軒ニテ催フセル哲学会ノ忘年会
ニ集リ哲学会雜誌ヲ発行スルコトヲ種々相談ノ上三十余人共
ニ食事ス

同十九日 日 晴

午前番町ニテ説教夫ヨリ靈南坂ニテ又説教ス時間少シク後レ
タルヲ以テ不愉快ニ思フタルモノモ少カラズ爾來深ク慎マス
ンバアル可ラサルコトト信ス両所共集ルモノ通例ヨリ多カリ
シ

午後仲町会堂ニテハ森本氏説教シ大ニ満足ヲ与ヘタリ

夫ヨリ厚生館ニ至リミユラル氏ノ演説ヲ聴聞ス聴衆凡ソ千

六七百ト見受ケラレ満堂更ニ立錫ノ地モナカリキ

夜靈南坂会堂ニテ説教シタルモ聴衆甚タ少カリキ

同廿日 月 晴

本日家中ノ大掃除ヲ為セリ余ハ午前会堂ニテ書面二十余通ヲ
認メタリ

午後井深氏ニ至リ日暮マデ聖書翻訳委員残務ノ計算ヲ為ス

夜三好氏家ノ集リニ会ス

下曾根氏布田ヨリ帰ル伝道費六円五拾銭ヲ渡ス但シ十一十二
ノ二ヶ月分ナリ又京都ヨリ送り来リシ寄附金四十円ヲ森氏ニ
渡ス

同廿一日 火 晴

午前在宅

午後來客二三人アリ同三時半ヨリ会堂ニテミユール氏ノ説教アリタリ聴衆凡ソ二百余名
夜丹羽氏ニ至リ講義ヲ為ス

同廿二日 水 晴

午前來客数名アリ

午後四時比ヨリ牛込天神町十一番地三宅雄二郎氏ヲ訪ヒ同氏宅ニテ種々教ノ話ヲ為シ九時過キ帰宅ス

同廿三日 木 晴

午前六合原稿ヲ認ム

午後尙時ヨリ聖書ノ講義ヲ為ス但シ書生ノ為メニ毎火木ノ兩日ニ聖書ノ講義ヲ為スコトニ定ム

夫ヨリ山崎氏ト□田氏ヲ訪ヒ日暮ニ帰宅ス

夜祈禱会アリ後安田氏ノ試検ヲ為ス他ニモ洗礼ヲ受ケント欲スルモノアレトモ本日其人來ラズ

同廿四日 金 晴

午前六合ノ原稿ヲ認ム

午後來客多クシテ外出スルヲ得ズ
夜三好氏ニ至リ夫ヨリ祈禱会ニ臨ム

同廿五日 土 晴

午前在宅説教ノ支度ヲ為ス

午後二時靈南坂会ニ於テキクスマスノ祝会アリ会堂ノ飾付等見事ニ出來上リタリ安息日学校生徒ノ唱歌暗誦等ハ未タ教師

ノ注意行キ届カサルニヤ不十分ナリシ集ルモノ凡ソ百名

夜五時ヨリ番町会堂ノクリスマスアリ生徒ハ靈南坂会堂ニ比シテハ上來ナリシ集ルモノ八九十人

其後三好氏宅ニテ茶菓ノ饗アリ又色々ノ芸アリテ頗ル面白キ会ナリシ

同廿六日 日 晴

午前番町ニテ説教集ルモノ四五十人夫ヨリ靈南坂ニテ説教聴衆凡ソ八九十人

説教ハ兩所共甚タ不十分ナリシ

午後仲ノ町会堂ニテ松山兄説教ス

夜番町ニテ説教夫ヨリ三好氏宅ニテ洋食ノ饗アリ独逸人ヘルリレクスピン子ルミハリスノ三人和田垣本多兩氏之ニ臨ム夜

十二時過キ帰宅ス

同廿七日 月 晴

午前新橋ニ至リミユール氏ノ神戸ヘ行クヲ送ル午後三好□部ノ兩氏來訪ス夫ヨリ小池三好ノ兩氏ヲ訪フ管ナリシモ俄カ

ニ腹痛起リ夫ヨリ打臥シタリ

同廿八日 火 晴

午前在宅

午後四時比ヨリ金杉村青江氏ヲ訪ヒ夜九時迄種々教ノ話ヲ為シ且ツ共ニ祈禱シテ帰ル帰路金杉ノ近傍ニテ溝ニ落ツ幸ヒ傷

モ受ケサリシ

同廿九日 水 晴

午前在宅聖書ヲ調フ午後一時ヨリ聖書ノ会説ヲ為ス

同三時ヨリ教会委員ノ集ヲ為ス種々肝要ナルコトヲ談ス番町
ノ執事モ来リテ説教ノ時間ヲ相談ス五六名ノ人ト共ニ食事ヲ
為ス

同三十日 木 晴

午前在宅

夜会堂ニテ祈禱会アリ後受洗者三名ノ試験ヲ為ス

同三十一日 金 晴

午前青山ニ行キ祈禱并ニ黙念ヲ為ス種々感スル所アリタリ又

説教ノ支度ヲ為セリ

午後一時ヨリ聖書ノ会説ヲ為ス

夜番町ニテ祈禱会アリ帰宅後十二時過キ迄森本氏等ト共ニ遊
戯ヲ為ス

茲ニテ明治十九年モ遂ニ尽キタリ此一年ヤ我一身ノ上ニテ変

遷アリシコト少カラズ

又神ヨリ受ケシ恩寵ヲ省レバ実ニ数ルニ違アラズ然レトモ一

身ノ事ヲ省レバ失策セシコト罪ヲ犯セシコト神ノ聖意ヲ感メ

シコト幾回ナルヲ知ル可ラズ願クハ年ト共ニ一身ヲ新タニセ

ント欲ス

今爰ニ余カ短所又ハ罪科ヲ揚クレバ第一、勇氣乏シキコト第

二、輕躁ニシテ事ヲ為スノ初メ十分ノ思慮ヲ為ズシテ跡ニテ悔

ルコト多キコト第三、優々不斷事ヲ決行スルノ勇氣足ラサルコ

ト第四、遷延事ヲ推シ送ルノ弊アルコト第五、怠惰ニシテ勉強心

少キコト〔欄外〕第六、事ヲ為ス熱心ノ足ラサルコト

是レ皆ナ消極ノ欠点罪科ナルガ積極ノ点ヲ挙クレバ亦左ノ如

キコトアリ即チ第一虚栄ヲ求ムルノ心多キコト第二嫉妬ノ心
大ナルコト第三驕慢ナルコト第四肉欲盛ニシテ之ニ負ケルコ
ト多キコト等ナリ

願クハ大能ノ神ヨ此罪人ノ主ナル此僕ヲ憐ミ年共新ニ其心ヲ

洗ヒ給ハンコトヲアアメン